

小野ゼミの二年間

第8期生 我田 哲之

年が明け卒業まで残り3ヶ月となった今、私は小野ゼミの選考に臨んだ時点からどのくらい成長することができたのだろうかということを考えた。しかしこの間に対してなんとなく成長した気はするが、どこがどのように成長したのかはわからない。そこでより明確な答えを得るために、この2年間を振り返ってみた。

まず、入ゼミ試験に合格して最初に課された課題はナノオプトニクス・エナジーの今後の戦略を策定せよというものだった。初めて経験するケーススタディだったが、アツイ荻野、明るい石田というメンバーに恵まれ無事終えることができた。この最初の課題に取り組む中で、レベルの高そうだった小野ゼミ生たちを身近に感じるようになった。

そして次に取り組んだのがマケ論執筆である。家の近かったリーダー佐藤を筆頭になかなか個性的なメンバーが集まり、他のチームからは仲が悪いと言われ続けた。しかし、既存文献を調べそれらの問題点を解決するために消費者分析を行い、仮説を実証するという流れを一度経験し、みんなと一緒に頑張るということを最後までやり遂げたということが私の大きな自信となった。

そうこうしているうちに、就職活動の時期がやってきた。私は学生時代、ゼミに打ち込んだと胸を張って話すことができ、無事内定をもらえた。このときに強く感じたことは、小野ゼミでの活動を単に頑張ることに満足するのではなく、この活動をどう社会で活かすのかということ意識することが大切だということだ。後輩たちには、ただ無心でゼミを頑張れば良いというわけではないということを伝えたい。

そして、卒業論文を執筆している今に至る。私の卒業論文のテーマは当初から一貫しており、主張したいと思ったことを主張するために論文を執筆している。私はこの点も大事だと考えていて卒論を書くために興味もないテーマを設定したりしている人が少ないのが小野ゼミのいいところだと認識している。人に決めてもらったテーマで論文を執筆したことはないが、どうもつまらなそうに感じてしまう。そんなことがない状況で本当に良かった。

このように振り返ってはみたものの、私が小野ゼミでどのような成長することができたのだろうかという間に対して明確な答えは浮かびそうにない。とはいえ、小野ゼミで2年間を過ごせたことは、間違いなく私の人生において大きくプラスとなっているだろう。

拙い文章になりましたが、こんな自分を見守り続けて下さった先輩方、一緒に切磋琢磨した同期、そしていつも慕ってくれた可愛い後輩には本当に感謝しています。末筆になりましたが、いつも温かいご指導をして下さった小野先生。2年間本当にありがとうございました。